

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	微分積分1（Calculus1）		
ナンバリングコード	L11103	大分類／難易度 科目分野	建築学科 専門科目／基礎レベル 工学基礎
単位数	2	配当学年／開講期	1 年／後期
必修・選択区分	コース必修:環境地域(まち)コース、環境地域(社会)コース 選択:建築設計コース、建築工学コース、住居・インテリアコース ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	L110351	クラス名	後期
担当教員名	有吉 雄哉		
履修上の注意、 履修条件	基礎学力講座・数学を修得していることが履修条件です(留学生にはこの条件がありません)。 講義中に演習時間を設けますので、講義に出席することが大切です。座席は指定しませんが、教員とコミュニケーションが取れるように、教室の前の方に着席してください。 理由のない欠席・遅刻・途中退室は厳禁です。正当な理由で欠席した場合は補講を行います。		
教科書	「数研講座シリーズ 大学教養 微分積分の基礎」 市原一裕 著 数研出版		
参考文献及び指定図書	なし		
関連科目	基礎学力講座・数学、微分積分2、線形代数1、線形代数2、力学リテラシー		

○基本情報		
授業の目的	様々な物理現象を数式で表すためには、微分積分学の知識が必要となります。また工業製品を設計し、製品とするには、物理現象を理解することはもちろんのこと、数式により表現された物理現象をもとに、必要となる数値を正しく計算できることが必要です。このため、微分・積分は工学部の学生の皆さんが学ぶ各専門科目の基礎となる重要な知識、技術のひとつです。 本講義の目的は、工学部ディプロマ・ポリシーの「日本文理大学工学部専門能力を構成する5つの要素を身に付け、ものづくりに活用できる」に関連し、今後の専門科目を学ぶ上で、また卒業後に工業製品を正しく間違いなく設計するために必要となる微分積分学の基礎知識を正しく理解し、その計算方法を身につけることです。また、微分積分学は、今日の社会において幅広い分野で必要とされる数理データサイエンス(その他※2参照)関連の基礎科目としても重要です。	
授業の概要	[講義内容の概要] 「1変数関数の微分・積分」を学修します。主に「関数の極限」、「微分の概念とその計算方法」、「不定積分と定積分」、「広義積分」についての理解と計算能力を修得します。また、微分の応用として「関数の挙動の調べ方」、「関数の多項式近似」を、積分の応用として「曲線の長さ・図形の面積の求め方」を学修します。 [講義方法の概要] 教科書の第1章から第3章の内容について学修していきます。教科書の内容を予習し、講義に臨んでください。また、講義中に次回授業までの宿題を出します。期限内に提出してください（詳細については「その他」で確認してください）。宿題は成績評価に反映されます。	
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	「複数クラス方式」
	(3) アクティブ・ラーニング	「該当なし」
地域志向科目	該当しない	
実務経験のある教員による授業科目	該当しない	

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100%)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【ディプロマ・ポリシー①】	対象にする計算式や計算結果の意味を理解できる。 計算方法等について、学生同士で教え合うことができる。	10%	10%	
【ディプロマ・ポリシー②】	計算方法を適切な資料から間違いなく見出すことができる。	10%	10%	
【ディプロマ・ポリシー③】	問題を自分で解くことができる。 問題を解く思考力を身に付けている。 計算結果が妥当であると判断できる。	50%	10%	

※教養教育科目及び教職科目については大学DP、専門科目については各学部DPIに準じています。

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)

取り組みの内容により総合的に評価します。達成水準の目安は以下の通りです。
[Sレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
[Aレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
[Bレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
[Cレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。
課題のフィードバックは、次回以降の授業中に行います。

○その他

[講義方法の補足]
教科書の「例」、「例題」、「練習」は資料や電卓等を活用し、自分の力で解き、検算し、正しい計算ができるようになることが重要です。
式を暗記することはお勧めしません。計算方法を忘れたときは、見て分るような手引き書を自分で作成し、講義後も使用できるようにすることをお勧めします。
宿題は、講義中に出题されます。次回講義までの指定された時間までに解答・提出してもらいます。何らかの理由で期限までに提出できない場合は、速やかに講義担当教員に相談してください。

[講義を欠席をした場合]
次回授業までの宿題をアクティブラーニング室(下記※1参照)まで受け取りに来て下さい。正当な理由による欠席の場合を除いて、提出期限の延長は行いません。

[期末試験に関する事前予告]
宿題を解く際は関数電卓の使用を認めていますが、期末試験では使用できません。これは問題を直接計算できる機能を有する関数電卓が販売されており、そのようなものとそうで無いものの区別がつかないためです。このため、定期試験の際に電卓を使用したい場合は、四則演算およびルートの計算ができる程度の通常の電卓を準備しておいてください。

※1「アクティブラーニング室」は4号館の1階にあります。学習に関する利用であれば、個人やグループを問わず自由に利用することが出来ます。特に、国語と数学の教員が待機していますので、何か困ったことがあれば質問・相談に行きましょう。

※2「数理データサイエンス」とは、適切な手法でデータを収集し、データの分析を行い、分析結果から得られた解釈を活用するという科学であり、今日の社会で広く必要とされる技能です。

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画		科目名 担当教員	微分積分1 (Calculus1) 有吉 雄哉	授業コード	L110351
学修内容					
1. オリエンテーション、関数、関数の極限(1) 講義の進め方や成績評価の方法等について説明します。 関数の基本的な事項、逆関数・合成関数、関数の極限について学修します。 授業中に宿題1を出題します。次回講義までの指定された時間帯に指定された方法で提出してください。					
予習		教科書の p.24-34 の内容を予習し、可能な限り「例」、「例題」、「練習」に取り組む。			約2時間
復習		講義ノートを復習し、疑問点は次回講義までに解決しておく。宿題1に取り組む。			約2時間
2. 関数の極限(2)、関数の連続性 関数の発散、片側極限、関数の連続性について学修します。 授業中に宿題2を出題します。次回講義までの指定された時間帯に指定された方法で提出してください。					
予習		教科書の p.34-44 の内容を予習し、可能な限り「例」、「例題」、「練習」に取り組む。			約2時間
復習		講義ノートを復習し、疑問点は次回講義までに解決しておく。宿題2に取り組む。			約2時間
3. 連続関数の性質、初等関数(1) 連続関数の性質、初等関数(代数関数、指数・対数関数)について学修します。 授業中に宿題3を出題します。次回講義までの指定された時間帯に指定された方法で提出してください。					
予習		教科書の p.44-52 の内容を予習し、可能な限り「例」、「例題」、「練習」に取り組む。			約2時間
復習		講義ノートを復習し、疑問点は次回講義までに解決しておく。宿題3に取り組む。			約2時間
4. 初等関数(2) 初等関数(三角関数、逆三角関数、双曲線関数)について学修します。 授業中に宿題4を出題します。次回講義までの指定された時間帯に指定された方法で提出してください。					
予習		教科書の p.52-60 の内容を予習し、可能な限り「例」、「例題」、「練習」に取り組む。			約2時間
復習		講義ノートを復習し、疑問点は次回講義までに解決しておく。宿題4に取り組む。			約2時間
5. 総合演習(1) ここまでの内容(教科書の第1章)について総合的な演習を行います。					
予習		教科書の p.24-60 の内容を復習し、講義担当教員に質問できるように質問内容をまとめておく。			約2時間
復習		講義ノートを復習し、疑問点は次回講義までに解決しておく。			約2時間
6. 微分とは 微分可能性と導関数、微分可能性と連続性、導関数の性質・公式について学修します。 授業中に宿題5を出題します。次回講義までの指定された時間帯に指定された方法で提出してください。					
予習		教科書の p.62-70 の内容を予習し、可能な限り「例」、「例題」、「練習」に取り組む。			約2時間
復習		講義ノートを復習し、疑問点は次回講義までに解決しておく。宿題5に取り組む。			約2時間
7. いろいろな関数の微分 合成関数の微分、逆関数の微分について学修します。 授業中に宿題6を出題します。次回講義までの指定された時間帯に指定された方法で提出してください。					
予習		教科書の p.71-75 の内容を予習し、可能な限り「例」、「例題」、「練習」に取り組む。			約2時間
復習		講義ノートを復習し、疑問点は次回講義までに解決しておく。宿題6に取り組む。			約2時間
8. 微分法の応用(1) 高次導関数、極大値と極小値、平均値の定理、ロルの定理について学修します。 授業中に宿題7を出題します。次回講義までの指定された時間帯に指定された方法で提出してください。					
予習		教科書の p.76-87 の内容を予習し、可能な限り「例」、「例題」、「練習」に取り組む。			約2時間
復習		講義ノートを復習し、疑問点は次回講義までに解決しておく。宿題7に取り組む。			約2時間

○授業計画		科目名 担当教員	微分積分1 (Calculus1) 有吉 雄哉	授業コード	L110351
学修内容					
9. 微分法の応用(2) ロピタルの定理, テイラーの定理について学修します。 授業中に宿題8を出題します。次回講義までの指定された時間帯に指定された方法で提出してください。					
予習		教科書の p.88-98 の内容を予習し、可能な限り「例」、「例題」、「練習」に取り組む。			約2時間
復習		講義ノートを復習し、疑問点は次回講義までに解決しておく。宿題8に取り組む。			約2時間
10. 総合演習(2) ここまでの内容(教科書の第2章)について総合的な演習を行います。 授業中に宿題9を出題します。次回講義までの指定された時間帯に指定された方法で提出してください。					
予習		教科書の p.62-98 の内容を復習し、講義担当教員に質問できるように質問内容をまとめておく。			約2時間
復習		講義ノートを復習し、疑問点は次回講義までに解決しておく。宿題9に取り組む。			約2時間
11. 積分の計算(1) 原始関数と不定積分、定積分の計算、置換積分について学修します。 授業中に宿題1を出題します。次回講義までの指定された時間帯に指定された方法で提出してください。					
予習		教科書の p.115-121 の内容を予習し、可能な限り「例」、「例題」、「練習」に取り組む。			約2時間
復習		講義ノートを復習し、疑問点は次回講義までに解決しておく。宿題10に取り組む。			約2時間
12. 積分の計算(2) 部分積分、いろいろな積分について学修します。 授業中に宿題11を出題します。次回講義までの指定された時間帯に指定された方法で提出してください。					
予習		教科書の p.122-127 の内容を予習し、可能な限り「例」、「例題」、「練習」に取り組む。			約2時間
復習		講義ノートを復習し、疑問点は次回講義までに解決しておく。宿題11に取り組む。			約2時間
13. 広義積分 広義積分について学修します。 授業中に宿題12を出題します。次回講義までの指定された時間帯に指定された方法で提出してください。					
予習		教科書の p.128-133 の内容を予習し、可能な限り「例」、「例題」、「練習」に取り組む。			約2時間
復習		講義ノートを復習し、疑問点は次回講義までに解決しておく。宿題12に取り組む。			約2時間
14. 曲線の長さ、図形の面積 曲線の長さ、図形の面積について学修します。 授業中に宿題13を出題します。次回講義までの指定された時間帯に指定された方法で提出してください。 なお、宿題13は総合的な練習問題です。					
予習		教科書の p.135-138 の内容を予習し、可能な限り「例」、「例題」、「練習」に取り組む。			約2時間
復習		講義ノートを復習し、疑問点は次回講義までに解決しておく。宿題13に取り組む。			約2時間
15. 総合演習(3) 宿題13(総合的な練習問題)について、講義担当教員が解説を行います。					
予習		教科書の p.24-138 の内容を復習し、講義担当教員に質問できるように質問内容をまとめておく。			約2時間
復習		講義ノートを復習し、疑問点は定期試験までに解決しておく。宿題13(総合的な練習問題)を解き直す。			約2時間
16. 定期試験 定期試験前に配布する「定期試験案内」に従い実施します。 持ち込み可能なもの等はこの案内で説明します。					
予習					
復習					